

今回のテーマ

心を支え つなぐ ふつうの“声”

5月は「いじめゼロ強調月間」でした。5月10日(水)の生徒朝会では、生徒会執行部が中心となり、いじめ問題について考える時間を設けました。

前期生徒会執行部のみなさん



29

小学校の先生をしている坪郷正徳さんが、中学生だったときにいじめにあった体験を紹介してくれています。そのお話を通し、身近に起こり得るいじめ問題を再確認し、いじめといかに向き合っていくべきかを考えました。

坪郷さんを支えてくれたのは、級友からのふつうのあいさつでした。朝、「おはよう」とか、隣の席になったときに「よろしく」とか。そんな、なんでもない声かけのおかげで、坪郷さんは少しずつ自信を取り戻して行くことができたと言っています。

日常生活の中にある「ふつう“声”」により、私たちは気が付かないうちに勇気づけられたり、勇気づけたりしているのです。

質問

坪郷さんに、失っていた自信を取り戻させてくれた<言葉>とは、どんなものだったでしょう？

- ア. 普通の挨拶
（「おはよう」「よろしく」など）。
- イ. 自分を認めてくれた言葉
（「お前本当いいやつだな」など）。
- ウ. いじめを否定する言葉
（「おれは、こんなくだらないことはしないよ」など）。
- エ. いじめられる人の気持ちをわかってくれた言葉
（「おれも、いじめられたことがあるよ」など）。
- オ. その他

☀️ おはよう 🐦

6月には「小さな親切」標語・作文コンクールを募集しました。応募した生徒たちを紹介します。

まずは、作文コンクールに応募した 2年4組 安部 璃胡 さん について紹介します。

安部さんは、今年の春に本校に転校してきたときに、太陽のような笑顔で「よろしくね」と声をかけてくれた級友の一言に勇気づけられた体験について書きました。親切心とは、相手の立場を想像し、考えることだと考えていました。また、“親切”とは結果的に、

「 他人 と 自分 を 認められること 」

ではないかと考えていました。

次に、標語コンクールに応募した 2年4組 諸伏 怜 さん の作品を紹介します。

交わし合う 声と笑顔で 広がる輪

日常生活の中にある「小さな親切」は、心を支え、つなぐ、一つの“声”なのだと感じました。

右の写真の左が安部璃胡さん、右が諸伏怜さんです。



質問 自分が友達だと思っている同級生に次のように言われたら、どうする？

「これ、校則違反だけど、先生に言わないでね、友達でしょ？」

(あなた)「**どうして校則違反をするの？**」→ (相手)「**どうして校則違反をしてはいけないの？**」
もしこうした問いかけがお互いに出せないならば、その同級生との間にある関係が本当に友情なのかを考え直すべきかもしれません。なぜなら、自分の思い通りにしてくれることが友情の証^{あか}しだとして、相手を支配しようとしてくる場合もあるからです。いじめているにもかかわらず、加害者は「楽しく遊んでいる」と思い込んでいる場合も多く、“友情”と“支配”を混同している人もいます。



みんなの「声」 - Opinions -

泉中道徳新聞 7月号

1年生の声①

日常で言う「おはよう」や「よろしく」が嬉しいというのはよくわかる。なので、自分はいじめにあったことはないけれど、その分いじめられているいないにかかわらず、誰にでも「おはよう」などの挨拶ができる人になりたいと思った。

1年生の声②

小学校までは、「いじめはだめ！」という説明のみで、真剣に考えることが少なかったが、今回実話を聞くことで、いじめた人・いじめられた人の両方の気持ちを知ることができた。いじめはだめだな、と改めて考え直せた。

2年生の声①

いじめを起こすことによって良いことは何もない。いじめは、ただその人を傷つけたということだけがずっと残り続けることになる。また、その心の傷は、その人の今後に影響するだけでなく、その人の家族も悲しませてしまうものだと思った。



2年生の声②

いじめている人は、いじめられている人の気持ちをわからない。いじめられてからは、その辛さわかるというのは、本当に怖いと思う。まずは、いじめをしないようにしたい。そして、いじめられている人がいたら、普通の挨拶でもいいから話しかけたい。

3年生の声①

いじめをしている側は、相手の苦しい気持ちがわからないでいるからいじめをしているんだなと思った。そして、いじめられている時に、本当の優しさについてわかったという内容がとても心に残った。

3年生の声②

実際に体験しないとよくわからないところもある。でも、自分のしたことは後になって自分に返ってくると感じた。だから、どんな理由があったとしても、自分がされて嫌なことは人にしてはいけないということを改めて思った。

2023年3月11日 朝日新聞 朝刊 声 「折々のことば」 鷲田 清一

「なんにもない日、おめでとう！」 齋藤 陽道

を紹介しました。



5月「いじめゼロ強調月間」の生徒会朝会において、生徒たちから出た意見をまとめました。世の中からいじめをなくすことは簡単ではなくても、一人一人の思いと行動の蓄積で、よい方向へ前進していけると改めて感じました。

☆彡「道徳教育通信」を読んだ感想を、明日の生活ノートに書いてもらえるとうれしいです。